

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成30年7月12日(2018.7.12)

【公開番号】特開2017-43191(P2017-43191A)

【公開日】平成29年3月2日(2017.3.2)

【年通号数】公開・登録公報2017-009

【出願番号】特願2015-166442(P2015-166442)

【国際特許分類】

B 6 0 G 11/12 (2006.01)

B 6 0 G 11/04 (2006.01)

【F I】

B 6 0 G 11/12

B 6 0 G 11/04

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月31日(2018.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

一方、前記リーフスプリング3aの後端部の前後方向に関する位置は、図1(a)に示す状態よりも後方に変位する。具体的には、前記リーフスプリング3aの後端部は、前記シャックル2aが、前記後側スプリングブラケット6aに対し、前記支持ピン7を中心として図1(b)に矢印<sub>2</sub>で示す方向に揺動する事に伴い、前記シャックル2aに対して前記揺動ピン12aを中心に図1(b)に矢印<sub>3</sub>で示す方向に揺動しつつ、後方に変位する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

このうちの外輪は、前記第一貫通孔16bの内周面に締め込みにより内嵌固定されている。即ち、該外輪は、前記シャックル2dの揺動に伴い、該シャックル2dと一体的に回転する。

前記内輪は、前記支持ピン7bの外周面に締め込みにより外嵌固定されている。

尚、本例の場合、該支持ピン7bは、軸方向片半部を、後側スプリングブラケット6aの貫通孔に、締め込みにより内嵌固定されている。従って、前記内輪は、車体に対して回転する事はない。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

又、以上の様な構成を有する本例のリーフスプリング式懸架装置 1 d の場合、前記センサ装置付ラジアル玉軸受 2 5 により、該第一貫通孔 1 6 b の内周面と、支持ピン 7 b の外周面との間部分に作用するラジアル荷重を支承する事ができる。この結果、当該部分の耐久性の向上を図ると共に、乗り心地の向上を図れる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

- 1、1 a、1 b、1 c、1 d リーフスプリング式懸架装置
- 2、2 a、2 b、2 c、2 d シャックル
- 3、3 a リーフスプリング
- 4、4 a 車軸支持部
- 5 車体フレーム
- 6、6 a 後側スプリングブラケット
- 7、7 a、7 b 支持ピン
- 8 車軸
- 9 a、9 b 支持環部
- 1 0、1 0 a 前側スプリングブラケット
- 1 1 揺動ピン
- 1 2、1 2 a 揺動ピン
- 1 3、1 3 a、1 3 b センサ装置
- 1 4 シャックル本体
- 1 5 被検出凸部
- 1 6、1 6 a、1 6 b 第一貫通孔
- 1 7 第二貫通孔
- 1 8、1 8 a 被検出面
- 1 9、1 9 a センサ本体
- 2 0、2 0 a 検出面
- 2 1 路面
- 2 2 エンコーダ部
- 2 3 スリット
- 2 4 平板部
- 2 5 センサ装置付ラジアル玉軸受
- 2 6 玉